

令和2年度 事業報告

社会福祉法人 恵徳会

令和 2 年度の主な事業報告

社会福祉法人恵徳会

社会福祉事業

【社会福祉法人 恵徳会】

令和2年度、社会福祉法人恵徳会は、『経営の充実と安定した運営を取り組む』を事業目標として、1.利用率の向上、2.高品質なサービスの提供、3.働きやすい職場づくり・人材育成、4.地域貢献、以上4点を具体的計画に掲げ取り組みを行った。

上記を踏まえ、具体的計画に基づく令和2年度の事業について、次のとおり報告する。

1. 利用率の向上

・令和2年度は、新型コロナウイルス対策に追われた1年であった。各拠点の近隣施設や病院ではクラスターも発生しており、法人内でも数名が感染したものの、感染拡大やクラスター化は防ぐことが出来た。ただし、営業活動や新規利用者の受け入れは制限せざるを得なかった。

・収支バランス改善を図るため、養護老人ホーム双葉の定員変更を検討し、福岡県へ許可申請を行った。

2. 高品質なサービスの提供

・コロナ禍で、対面面会の制限が続いていたことから、利用者家族との情報共有が図れなかったため、写真付きの文書の送付、来所されたご家族の話を伺う等、ご家族や利用者の不安解消に取り組んだ。

・法人職員の新型コロナウイルス感染が判明した際は、ホームページやご家族へ文書を送付し、逐次状況報告を行った。

3. 働きやすい職場づくり・人材育成

・法人内スクールの受講者は、令和2年度は全員国家試験に合格できたため、今後も職員の資格取得支援を積極的に行っていきたい。

・新型コロナウイルスの影響で、EPA 介護福祉士候補生の来日が。令和3年度に延期となったこと、新たな人材育成の観点から、技能実習生(介護職)の受け入れについて検討を開始した。

4. 地域貢献

・コロナ禍で、各地域の行事は縮小や中止となったケースが多かったが、子ども食堂への寄贈品窓口としての活動(食材運搬)や、ライフレスキュー事業における、生活用品の搬入等の支援者援助を行った。不要となった家具や家電の回収は随時実施した。

[諸会議]

(1) 理事会

第1回 令和2 6月8日 書面評決	第1号議案	令和元年度予算超過について
	第2号議案	令和元年事業報告について
	第3号議案	令和元年度決算について
	第4号議案	ヘルパーステーションのくに管理者選任について
	監事監査報告	監査報告について
	第5号議案	令和2年度第1回定例評議員会開催日時、提案議題について

第2回 令和2年 9月25日 書面評決	第6号議案	令和2年度第1次補正予算について
	第7号議案	理事候補者の推薦について
	第8号議案	給与規定の一部改正について
	第9号議案	令和2年度臨時評議員会の開催と提案議題について
	報告事項	令和2年度第1次四半期報告 新型コロナウイルス発症状況報告
第3回 令和2年 12月25日 書面評決	第10号議案	令和2年度第2次補正予算について
	第11号議案	養護老人ホーム双葉定員変更について
	第12号議案	「サービス付き高齢者住宅まほろばの里なの国」及び「デイサービスセンターなの国」、並びに「ホームヘルプステーションなのくに」の管理者選任について
	第13号議案	経理規程の一部改正について
	第14号議案	運営規程の一部改正について
	第15号議案	資格取得支援規程(内規)の制定について
	報告事項	令和2年度第2四半期報告 公認会計士内部監査報告 令和2年度介護老人保健施設若杉の里実地指導結果報告
第4回 令和3年 3月25日 テレビ会議	第16号議案	福祉医療機構による新型コロナ対応資金借入について
	第17号議案	令和2年度第3次補正予算について
	第18号議案	令和3年度事業計画について
	第19号議案	令和3年度予算について
	第20号議案	運営規程の一部改正について
	第21号議案	就業規則の一部改正について
	第22号議案	時期評議員候補者について
	報告事項	令和2年度第3四半期報告 養護老人ホーム定員変更について 令和3年度特別養護老人ホーム恵昭園、介護老人保健施設若杉の里、並びに特別養護老人ホームなの国の給食委託業者選定について

(2) 評議員会

第1回定時 令和2年 6月24日 書面評決	第1号議案	令和元年度予算超過について
	第2号議案	令和元年度決算について
	監事監査報告	監査報告について
	報告事項	令和元年度事業報告について 第1回理事会報告
第2回臨時 令和2年 10月9日 書面評決	第3号議案	理事の選任について
	報告事項	第2回理事会報告 令和2年度第1四半期報告 新型コロナウイルス発症の状況報告

(3) 監事監査	令和2年6月1日
(4) 運営会議	6回
(5) 幹部職員会議	感染防止のため資料配布
(6) 各種委員会	感染防止のため資料配布
(7) 公認会計士による外部監査	令和2年5月25日～27日 令和2年9月23日～24日 令和2年11月24日～25日 令和3年2月24日～25日

【特別養護老人ホーム恵昭園】

1. 利用率の向上

- ・感染対策から、入所希望者への施設見学が出来ず、写真での説明のみでは、イメージが出来ないとの意見を多く頂いた。年間10名の入所者あったが、退所者も10名で利用実績の向上には至らなかった。
- ・医療機関等からの受け入れの際は、事前に抗原検査を依頼。また、養護老人ホーム双葉の定員変更に伴い、双葉入所者の受け入れも行った。
- ・広報担当者の広報活動により、医療機関からの入所問い合わせが増え、年間35名の入所申し込みに繋がった。
- ・緊急性を加味し、入所検討委員会を経ずに入所を行ったケースがあった。

2. 高品質なサービスの提供

- ・利用者の状態に合わせて排泄用品食事形態、介助方法の検討を随時実施。自然排便を促す取り組みは、新たな対象者を増やすことは出来なかった。
- ・接遇マナーの手引きを基本としていたが、職員の言葉の乱れが認められたため、その都度注意喚起を行った。
- ・感染対策で、行事の規模縮小や中止を余儀なくされ、室内での壁飾りや雰囲気作り、少人数での個別レクが中心となった。
- ・利用者、家族アンケートは実施出来なかった(新型コロナウイルスのため)
- ・24時間シートは未導入だが、排泄記録はタブレットへの入力へ移行することが出来た。
- ・感染対策のため、外部のみならず内部での研修の実施も困難な中、申し送り時の伝達や資料を配布することで、情報の周知徹底に努めることができた。感染症対策委員会は、可能な限り開催し、新型コロナウイルスの動向等の情報共有を行った。
- ・感染対策のため、家族が参加してのカンファレンスは行えなかったが、電話連絡を密に行い、利用者の近況報告や家族の意向確認を実施、ケアプランの作成を行った。
- ・感染症対策として、手すりやテーブル等のアルコール消毒をこれまで以上に徹底した。

3. 働きやすい職場づくり・人材育成

- ・介護報酬改定に伴う算定届の提出や36協定等実情に応じた届出を随時提出した。
- ・就業規則を改正し、新型コロナウイルス発生(疑い)時の特別休暇を設けた。

- ・人材育成の観点から主に中堅職員と連携を取り、課題発見や改善を都度実施。またキャリアアップのフィードバックシートの中で、各職員へ次期の目標を提示、やりがいの持てるような取り組みを行った。
- ・職員数が少ない中で、利用者へ十分なサービス提供が行えるよう業務の見直しや改善を行い、利用者だけでなく職員にも働きやすい環境づくりを行った。
- ・職員の退職に伴い求人募集を行うも、応募が少なく派遣職員による増員で対応せざるを得なかった。

4. 地域貢献

- ・感染対策として、地域行事自体が中止となり地域との交流はほとんど行えなかった。
- ・自然災害発生時に施設の空きベッドを活用、避難所としての役割を担った。

【恵昭園短期入所生活介護】

1. 利用率の向上

- ・新規受け入れは年間 16 名でその内 14 名は再利用に繋がった。
- ・コロナ禍で問い合わせ自体の件数が少ない中、突発的な利用や緊急性を加味し受け入れを実施した。
- ・医療ニーズが高い方については、夜間の医療ニーズが不要な方については受け入れを実施。
- ・ロングショートは月に 1 名以上を目標に受け入れを実施。ロングショート利用者から入所へ繋がったケースはなかったが、介護者不在や虐待事例の可能性、自宅での課題解決に貢献することができた。入所申し込みに繋がったケースはあった。
- ・コロナウイルス対策融資として福祉医療機構から借り入れを行った。

2. 高品質なサービスの提供

- ・初回利用の方には家族の協力も得ながら、利用中の精神的負担の緩和を図った。利用者の趣味や嗜好を事前に把握し、可能な限り自宅とギャップを取り除いた。
- ・新型コロナウイルス感染が疑われた場合には他フロアとの接触を避けるために仕切りを使用し、感染自体や感染拡大防止に努めた。また、通所サービスと連携し、注意喚起を促す文書や、発症時の対策について事前通知を行った。
- ・職員の入れ替わりが多く、薬の返却忘れが目立ったため、返却については看護師だけでなく他部署の職員も確認するように変更した。

3. 働きやすい職場づくり・人材育成

- ・感染対策から、フロア会議や勉強会は実施せず。資料の配布を行った。

4. 地域貢献

- ・家族へ介助方法の勉強会の機会を設けることが出来なかったが、個別に介助指導を行い、家族の介護負担の軽減に努めた。

【アネックス恵昭園】

1. 利用率の向上

- ・年間新規入居者は 5 名で、退去者は 6 名。平均 16.7 名の目標稼働率は達成できなかった。入所待機者には定期的に連絡し、現状把握を行うも入居に繋がるケースは少なかった。

2. 高品質なサービスの提供

- ・職員によっては言葉の乱れが見られることがあり、注意や指導を行うも改善に至らず、職員間の認識の差が見られた。
- ・利用者の整容や私物管理は問題なく実施できたが、担当入居者との関わりの面では物足りなさがあった。ただし、私物や家具の持ち込み、状態変化時の居室のレイアウト変更は早期に実施出来た。

3. 働きやすい職場づくり・人材育成

- ・新型コロナウイルス感染症のため、計画していた内部研修は殆ど開催出来なかった。ただし、ユニットリーダー研修やユニット管理者研修を受講することが出来た。
- ・タブレットは活用できている一方で、ユニット会議が開催できず、中堅職員と新職員との間でケアや介護観に対する認識のズレが見られた。

4. 地域貢献

- ・ふくおかライフレスキューサポーターとして、リユース品の搬入を行った。

【恵昭園デイサービスセンター】

1. 利用率の向上

- ・短期入所と密に連携し、迅速な情報共有を行った。文書や電話等で営業を行うも、新型コロナウイルスの影響で、新規利用の受け入れが難しく、デイサービスの利用控えもあり目標としていた利用人数は達成できなかった。
- ・1日の利用者数に合わせて職員配置を検討し、全職員でコストへの意識改革を行ったが、利用者減に伴う収入減により収支状況が悪化、予算編成も困難だった。
- ・コロナウイルス対策融資として福祉医療機構から借り入れを行った。

2. 高品質なサービスの提供

- ・連絡ノートやモニタリング、送迎時の聞き取りやケアマネジャーとの情報共有等で、利用者の変化に一早く気づき、状態に合わせたサービスの変更を行った。また、独居生活の方への、サービス外のケアも行い、在宅生活継続の支援を行った。
- ・感染症対策で通所会議が行えず、職員間の密な情報共有やケアの方向性について詳細な話し合いが出来なかった他、集団での活動が困難となり、外出行事は中止となるが多かったが、行事の変更やレクリエーションを工夫し、サービスの質の低下を防ぐよう努めた。
- ・朝の迎え時や14時に検温を実施、家族へ聞き取り等を行うと共に、消毒作業の徹底等感染防止の取り組みを行った。

3. 働きやすい職場づくり・人材育成

- ・離職防止に向け、職員一人一人とこまめなコミュニケーションを取り、問題解決へ全職員で取り組める環境を作った。そのため離職する職員が減ったほか、派遣職員として就労していた職員が正規雇用へ繋がったケースもあった。

4. 地域貢献

- ・新型コロナウイルスの影響で地域行事への参加は出来なかった。

[防災・防犯対策]

① 併施設との合同訓練（避難・消火・通報訓練）

1 回目 令和 3 年 1 月 22 日（金） （昼間想定訓練）

2 回目 令和 3 年 3 月 17 日（水） （夜間想定訓練）

② 受電設備点検

毎月 1 回の点検及び年 1 回の法令点検を実施。

③ 災害に対する防災訓練（避難・通報・非常時物品準備訓練）

令和 2 年 11 月 27 日（金） （地震・風水害）

令和 3 年 1 月 22 日（金） （地震）

[実績]

① 入・退所（恵昭園）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入所者数	1	1	0	3	0	0	1	1	0	1	0	2	10
退所者数	0	1	0	1	1	1	0	1	2	0	1	2	10
月末在所数	44	44	42	46	45	44	44	44	42	43	42	43	
稼働率(%)	86	88	86	86	90	89	87	88	87	86	87	84	81.23

②短期入所

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者(延)	178	187	188	182	190	212	199	224	263	210	195	196	2,424
平均数	5.6	5.5	5.3	5.3	5.5	6.0	5.4	6.5	7.7	6.1	6.2	5.5	6.4
稼働率(%)	37	38	39	37	38	44	40	47	53	42	44	40	39.31

③入・退所（アネックス）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入所者数	1	0	1	0	0	0	1	0	2	0	0	0	5
退所者数	1	0	0	0	0	0	0	0	1	3	1	0	6
月末在所数	16	16	17	17	17	17	18	17	17	16	15	15	16.5
稼働率(%)	76	80	80	85	85	85	86	86	80	83	78	75	81.58

④通所介護

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用（延）	350	347	331	338	305	300	306	297	313	249	256	306
平均（日）	17.4	17	16.4	16.3	14.3	14.8	14.1	14.4	14.5	12	13.5	14.4

平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
要介護度	2.3	2.3	2.1	2.1	2.1	2.2	17.	2.2	1.8	2.2	2.2	1.8	2.08

【養護老人ホーム双葉】

1. 利用率の向上

- ・支出費用の削減として、消耗品を購入する際は、価格が抑えられるようインターネットや店舗等を比較して購入したものの、感染対策物品の購入が増え、例年と比較し全体的に支出増となった。
- ・感染対策として、施設見学は控えてもらったものの、概要説明や面接を随時実施した。
- ・入所者が減ったため、本館利用者の移床を実施、本館の2棟を閉鎖した。また、職種ごとに業務省略化に向けた話し合いを行った。

2. 高品質なサービスの提供

- ・感染症対策で入院先の病院での面会が出来ない状況のため電話での状態把握並びに情報伝達を実施した。
- ・新型コロナウイルス感染状況を見ながら感染予防対策委員会を随時実施し、対応を行った。早急な対応が必要な際はカンファレンスを行い、職員への周知徹底を図った。
- ・インフルエンザ予防接種の実施に当たり、嘱託医の協力の元、利用者の移動範囲を最小限に留める工夫を行った。
- ・年間を通してマスクを着用している利用者が多かったためか、ウイルス感染による熱発者が例年と比べ少なかった。
- ・施設内部で実施するカラオケクラブやパットゴルフは行ったものの、詩吟や生け花等、外部講師が来所するクラブ活動については中止した。また、ほとんどの行事も中止となった中で、感染状況を落ち着いた時期に、外部とは接触しないような形でミニドライブを実施した。

3. 働きやすい職場づくり・人材育成

- ・プリセプター制度を実施するも、制度自体の見直しは出来なかった。

4. 地域貢献

- ・感染症対策で地域行事の大半が中止となったことに加え、あいさつ通り清掃も未実施となった。
- ・被虐待高齢者等の受け入れ時は、感染予防の観点から事前に抗原検査を受けて頂いた上で、大野城市から2名、筑紫野市から1名の受け入れを行った。

【訪問介護事業所 ホームヘルプステーション ふたば】

1. 利用率の向上

- ・年間平均利用者数、要支援者30名は実施できたが、要介護者60名は達成できなかった。
- ・宇美町の居宅介護支援事業所にアプローチを行ってきたが、新規利用者確保に繋がらなかったため、須恵町の居宅介護支援事業所へ切り替え営業活動を実施。数名の利用に繋げることが出来た。

2. 高品質なサービスの提供

- ・訪問介護サービスの統一を目的とした「訪問介護サービスの基本マニュアル」は更新出来たが、「訪問介護サービスに係る業務手順書」については、見直しが出来なかった利用者もいた。

3. 働きやすい職場づくり・人材育成

- ・感染症対策のため、外部研修への参加は見合わせた他、緊急事態宣言中は事業所内の会議や研修も中止とし、必要書類の配布に留めた。

4. 地域貢献

- ・利用者本意に沿ったサービス提供を実施した。

[実績]

①入・退所（双葉）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入所者数	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
退所者数	2	4	0	2	0	0	1	0	0	3	1	5	18
月初在所者数	106	105	101	101	99	99	99	100	100	99	96	95	1200
稼働率(%)	70.7	70.7	67.3	67.3	77.3	66	66	66.7	66.7	66	64	65.3	67.8

【特別養護老人ホームなの国】

1. 利用率の向上

・新型コロナウイルスの影響で入居が進まなかったことも要因となり、年間稼働率は目標の77名を下回り76.5名となった。

・連携医療機関との連携を密に取り、早期退院が出来るよう働きかけたが、他事業所との交流は感染症対策の観点から機会を設けることが出来なかった。

・感染症対策として、入居希望者の施設見学は中止しているが、パンフレットと共にサークル活動等施設の様子が分かる写真集を作成し、なの国の雰囲気を知って頂き、入居者の確保に努めた。

・マスクや手袋等感染対策物品の購入は、新たな業者も交え見積もりを取り、購入単価の見直しを行った。

2. 高品質なサービスの提供

・入居者自身の”出来ること”を尋ね、重点的なアセスメントを実施したが、入居後の実行率が低かった。

・スタッフの判断ミスから入院へ繋がるケースがあったため、業務の見直し—特にユニット間の応援体制について検討する。

・サークル委員会を新たに発足し、活気のあるサークル活動为目标に取り組みを行った。季節感のある企画を立案し、施設内時間の充実を図った。

・感染症対策から、サービス担当者会議への利用者の参加は見送ったが、日頃のコミュニケーションを密に取り、担当職員とも情報交換を行った上で、利用者本人の意向を共有、想いに沿った支援を行った。一方で、利用者の普段の様子を家族へ伝えるための情報収集が不足していた。

・日常生活動作を評価し、介護支援専門員と共に残存能力を生かす個別訓練を立案することが出来た。

3. 働きやすい職場づくり・人材育成

・施設内研修の他、リスクマネジメントの一環として介護技術講習会を開催し、サービスの質の向上を図った。

・介護技術の向上に関して、ユニットスタッフに任せきりとなったため、今後は計画を立てた上で実施する。

・経験年数の少ない職員への講習や、状態が変化した入居者への介助方法検討を行った。

・栄養士会主催のオンライン研修に参加した。

・プリセプター制度がしっかりと実施できていない部分があった。

4. 地域貢献

・感染症対策のため、地域行事への参加は出来なかった。同様に施設の秋祭りも中止となっ

たため、初めて文化祭を開催。入居者へは好評で作品作りのモチベーションに繋がった。

- ・毎週金曜日に、福岡市 JA へ出向き、子ども食堂用の野菜の運搬を実施した。
- ・ライフレスキュー事業における会議の参加は見合わせたものの、西区社協と電話やメールでの情報共有を行うことが出来た。

【ショートステイなの国】

1. 利用率の向上

・稼働率は目標の 18.0 人に対して月平均 17.2 名で推移した。稼働率は 86.2%で、これは新型コロナウイルスの影響でキャンセルが相次いだこと、感染対応で利用を一時中断したこと、利用控えに伴う新規利用者の減少が原因と考えられる。

・緊急的な利用の受け入れは可能な限り実施したが、家族の体調不良等が理由の際は利用を断らざるを得なかった。

- ・ショートステイから特養へ入居申し込みをされ、入居待機で 9 名の方が長期利用中となっている。

2. 高品質なサービスの提供

・担当者会議も感染症対策で照会対応となることが多く、電話での情報共有に努めた。

・感染対応として、長期利用中の方の家族や担当ケアマネジャーに対し、体調確認や利用時の様子等を報告した。

・概ね 3 泊 4 日以上利用が続いている方は、プラン作成や更新を実施。作成時は居宅サービス計画との整合性を保つことを念頭に置いた。

3. 働きやすい職場づくり・人材育成

・ショートステイ会議へ参加し、利用者本人や家族の意向について担当者と情報共有を行った。個別のケースに対しては、会議だけでなく全職員のアセスメントを集約し安心できるサービスの提供を行った。

4. 地域貢献

・新型コロナウイルスの影響もあり、地域ケアを考える会の活動は未実施。ライフレスキュー事業では、虐待案件について緊急的な保護を実施したケースがあった。

【デイサービスセンターなのくに】

1. 利用率の向上

・月初提出の書類に合わせて、行事予定表等も持参し新規利用者の有無確認を実施。緊急事態宣言時は訪問を控え、FAX や電話での報告を行った。

・毎月の行事は感染対策のため花見や山笠見学等は中止したが、集団ではなく自席で行えるおやつ作り等の行事を充実させることができた。また、初めて畑作りに挑戦し、収穫した野菜等は、利用者と調理し食べることができた。その結果、園芸目的の利用者を獲得できた。

・体力や経済面から、短時間利用を希望している方も積極的に受け入れ、可能な限り振替利用にも応じ柔軟な対応を行った。

・令和 2 年度、月平均 15 名(前年度 14.9 名)で稼働率は 60%。新規利用者数は 29 名(前年度 16 名)。利用者実績数は 4,680 名(前年度 4,655 名)。

2. 高品質なサービスの提供

・新型コロナウイルスの影響で施設外研修だけでなく、施設内研修も実施出来なかったが、インターネットを視聴する形で、接遇研修は実施した。

3. 働きやすい職場づくり・人材育成

・資格取得希望者に対し、他職員の協力の元希望の勤務や変更を柔軟に実施。

・順番に有給が取得できるよう考慮し、突発的な病気や怪我の際は、公休職員が出勤する等

協力体制が出来た。また、体調不良時に無理をしないよう声掛けに努めた。

4. 地域貢献

- ・ 吉岐校区の文化祭は、新型コロナウイルスの影響で中止となったため物品販売は出来なかった。また、近隣のその他の行事や会議も開催されず、近隣住民との連携や情報共有は図れなかった。

【ヘルパーステーションなのくに】

1. 利用率の向上

- ・ 定期訪問でサービスがマンネリ化し、業務中心となることがあったため、訪問介護会議やカンファレンスにて周知徹底を行った。
- ・ 他事業所の閉鎖や縮小により、新規利用者を多く獲得することが出来た。
- ・ 申し送りノートの活用や日々の連絡、サービス責任者毎に利用者を振り分け、担当制とすることで、情報共有が徹底できた。計画変更時はカンファレンス会議を即時に実施し、利用者のニーズに対応した。
- ・ 利用者の状況に応じてデイサービスやショートステイを紹介し、自宅での入浴が困難な利用者にデイサービスのリフト浴を紹介、利用に繋げることができた。また、デイサービスからの紹介で、利用に繋がったケースもあった。

2. 高品質なサービスの提供

- ・ 外部研修は感染対策のため、参加は困難であったが、事業所内で新型コロナウイルス等の感染症の資料や映像を使い学習会を行った。
- ・ 事業所内研修や会議は毎月実施し、欠席者には後日フォローを行った。
- ・ 日々の業務の振り返りが出来るように、接遇資料を全職員へ配布した。
- ・ 「同じヘルパーさんに来てほしい」との要望が利用者やケアマネジャーから複数寄せられたため、可能な限りそれらの要望に沿えるよう勤務変更を行った。

3. 働きやすい職場づくり・人材育成

- ・ 訪問介護会議や研修だけでなく、個別での年間計画を作成する際に面談を実施。意見の言い易い環境作りを行った。
- ・ 1人の利用者に最低3人の職員が対応できるよう、日頃から同行訪問を行い、カバーできる体制を作ることで有給が取得しやすい環境を作った。
- ・ 職員によってサービス手順にバラつきが見られ、利用者の不安や職員間の意見の食い違いがあったため、手順書の見直しや統一を行い、全職員へ周知した。

4. 地域貢献

- ・ 状況に応じて利用者の近隣の民生委員へ協力を要請。利用者がその地域で安心して暮らせる環境となるよう努めた。

[実績]

①入・退所（なの国）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入居数	1	1	2	1	0	1	2	2	5	2	1	1	19
退居数	0	2	1	0	1	2	2	5	3	2	1	0	19
月末在所	78	79	77	78	78	75	74	76	76	76	76	78	923
稼働率(%)	95.3	96.9	96.7	97.4	98.6	94.8	94.5	91.8	92.1	96.0	97.4	95.8	95.6

②短期入所

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用(延)	541	541	507	548	537	565	527	539	531	504	475	479	6,294
日平均数	18.0	17.5	16.9	17.7	17.3	18.8	17.0	18.0	17.3	16.3	17.0	15.5	17.3
稼働率(%)	90.2	87.3	84.5	88.4	86.6	94.0	85.0	89.8	86.3	81.1	84.8	77.5	86.3

③デイサービスセンター

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用(延)	329	355	366	379	390	398	429	392	421	383	387	451	4,680
平均(日)	12.7	13.7	14.6	14	14.4	15.9	15.9	15.7	15.6	14.7	16.1	16.7	15.0

平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
要介護度	2	1.9	1.9	1.9	1.9	2	2.1	2.3	2.2	2.1	2.1	2.1	2.042

④ヘルパーステーション

・登録者人数

区分/月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
登録者 (実人数)	(支援)	25	25	28	26	26	31	28	30	33	32	30	33	347
	(介護)	32	26	25	30	27	28	28	31	31	31	33	35	357
	(計)	57	51	53	56	53	59	56	61	64	63	63	68	704

・サービス提供延べ数

区分/月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
サービス 提供数	(生活)	142	115	119	128	109	121	136	138	190	115	106	127	1,546
	(身体)	374	356	227	319	316	292	275	246	256	228	233	244	3,366
	身体・生活	12	20	45	37	23	26	37	33	35	51	50	55	424
	(予防)	145	155	139	155	160	168	160	167	190	171	178	206	1,994
	(計)	673	646	530	639	608	607	608	584	671	565	567	632	7,330

【介護老人保健施設若杉の里】

1. 利用率の向上

・入所までのプロセスを調整し紹介率アップを図ったが、新型コロナウイルスの影響で未達成。また、情報収集や柔軟な対応にも影響があった。

・毎月の利用状況、収支状況を把握し、必要時に補正を実施。2年度は新型コロナウイルスに係る経費補助金や職員給付金が支給されたため、感染予防対策として送迎車や車椅子等の備品購入を行ったため、感染予防物品の支出が増加した。

2. 高品質なサービスの提供

・新型コロナウイルス拡大の影響により、入所面談自体を行うことが困難であったため、電

話等での聞き取りを行い、情報共有に努めた。しかし、詳細な情報収集は出来なかった。

- ・他職種との情報交換だけでなく、利用者の生活に関する情報を収集し、状態変化時は速やかなカンファレンスを実施、サービスの変更を行ったが、新型コロナウイルスの影響もあり、利用者が望む自立した生活を、全ての生活場面で提供することは出来なかった。

- ・状態悪化時は早期に施設医師の見解を確認し、感染対策を行った上で、来所によるインフォームドコンセントを実施、全職員で情報共有を行った。

- ・通常ターミナル期は個室対応を行い、家族と共に過ごせる環境設定を行っていたが、感染対策との兼ね合いで、利用者本人や家族に満足いただけるターミナルケアを提供することは出来なかった。

- ・感染対策実施時であっても、利用者個々のニーズを生かした生活を目指し個別性を生かしたケアプランを意識して作成した。

- ・潜在的なニーズ(利用者、家族)を引き出せるよう、意図的な関わりは行えなかった。

- ・本人らしい生活が送れるよう、ポジショニング等の写真の掲示や定期的な見直しは実施出来ているが、各フロアでの統一や定着には不十分な点が見られる。

- ・予防カンファレンスは以前より実施出来ているが、今後も継続課題。

- ・感染対策として、リハビリはソーシャルディスタンスを意識して行った。

- ・配膳ミスがあった際には、都度給食委託業者とミスの要因を検討、対策を検討した。

- ・年度中、施設職員が新型コロナウイルスに数名感染したが、利用者や他職員への罹患はなく、最小限に留めることができた。行政や各種団体への報告、ホームページでの周知を行い、保健所の指導に基づき対応を実施。感染拡大を想定し、隔離対策やゾーニングのシミュレーションを行った。また、感染対策助成金を活用し、感染予防物品を購入した。

- ・緊急事態宣言発令時等に、併設施設(恵昭園)と合同で感染委員会を開催。面会の制限や感染者発生時の対応等を都度検討した。

3. 働きやすい職場づくり・人材育成

- ・新型コロナウイルスの影響もあり、法人研修は未実施。OJTは個々の状況に応じて実施出来た。

- ・職員数が充足していない中でも、可能な限り職員指導を実施。特に新職員へは、指導役の職員と役職職員が連携を図り指導を行った。定期的には実施出来なかったが、必要時に指導役の職員(もしくは役職職員)が新職員と面談を実施した。

- ・職員1名が法人内で開講している実務者養成研修を受講し、介護福祉士に合格した他、受験資格のある職員2名が新たに介護福祉士へ合格した。

- ・ハローワークやチラシを配布し、求人活動を行っているが求職者の応募がなく派遣職員の採用を行っている。

4. 地域貢献

- ・地域包括システムとの関りについては、2回ほど依頼があった他は感染対策で自粛した。地域ケア会議も同様に1回のみで開催であった他、地域ミニデイサービスは年間を通じて開催されなかった。

[防災対策]

① 併設施設との合同訓練(避難・消火・通報訓練)を2回実施した。

1回目 令和2年6月20日(土) (昼間想定訓練)

2回目 令和3年2月25日(木) (夜間想定訓練)

② 防災設備点検

- 1 回目 令和 2 年 6 月 1 日、2 日 (粕屋南部消防署報告)
 2 回目 令和 2 年 11 月 30 日、12 月 4 日 (非常用発電機負荷試験)

③ 防火対象物点検・ 令和 2 年 6 月 1 日 (粕屋南部消防署報告)

④ 防災訓練

- 土砂災害 令和 2 年 11 月 27 日

⑤ 防犯訓練 令和 3 年 2 月 25 日(水)

⑥ 受電設備点検

毎月 1 回の点検及び年 1 回の法令点検を実施。

[実績]

① 退所状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
新規入所者	6	4	0	3	3	2	0	3	3	0	1	3	28
短期入所者	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
長期退所者	3	2	2	0	2	1	1	2	1	1	3	3	21
短期退所者	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
月末在籍者	83	85	83	86	87	88	87	88	90	89	87	87	
稼働率(%)	81.6	83.0	84.4	84.5	85.8	86.8	87.4	87.9	88.9	89.4	87.0	87.7	86.2

② 月別要介護度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
要介護 1	14	12	11	12	14	15	15	15	16	15	16	16
要介護 2	16	18	18	19	19	19	19	19	19	19	18	18
要介護 3	23	21	21	22	22	23	23	23	23	23	23	22
要介護 4	10	14	14	14	13	13	13	14	15	15	14	14
要介護 5	20	20	19	19	19	18	17	17	17	17	17	17
合計	83	85	83	86	87	88	87	88	90	89	87	87
平均要介護度	3.07	3.14	3.14	3.10	3.05	3.00	2.98	2.99	2.98	3.00	2.98	2.98

公益事業

【居宅介護事業所 ケアプランセンターふたば】

1. 利用率の向上

・新型コロナウイルスの影響による活動制限で十分な訪問や PR は出来なかったが、コロナ禍の狭間で区分変更の利用者を複数名獲得できた。また、要支援者も積極的に確保した。しかし、逝去や入院等により利用者は大幅減となった。登録利用者 91 名(内要支援者 25 名)。

2. 高品質なサービスの提供

- ・介護保険適正化事業のため、令和3年2月17日に太宰府市役所にてケアプランチェックを実施。
- ・居宅内勉強会と毎月のチェック項目を活用し、特定事業所加算算定要件を順守出来ている。
- ・9月と3月に他介護支援事業所との交流会を実施。

3. 働きやすい職場づくり・人材育成

- ・感染体躯策のため、外部研修に参加が出来なかったが、コミュニケーションを図る目的も含め、事業所内勉強会は実施出来た。

4. 地域貢献

- ・地域行事は感染対策のため軒並み中止となったため、地域との交流は図れなかった。
- ・ペットボトルキャップや使用済み切手、ベルマークは継続して収集しているが、太宰府市社協が感染予防対策の一環として回収を中止しているため、再開を待つこととなる。

- ・令和2年度利用者登録者数

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護5	20	20	18	19	20	20	23	23	23	23	21	22	252
要介護4	21	20	22	21	22	22	22	23	24	24	23	23	267
要介護3	15	12	12	12	11	11	11	12	14	13	13	13	149
要介護2	6	5	5	5	5	4	3	2	2	4	4	6	51
要介護1	5	5	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	40
要介護(合計)	67	62	60	60	61	60	62	63	66	67	64	67	759
要支援2	12	12	12	12	12	12	11	11	10	11	11	11	137
要支援1	17	17	17	17	16	16	14	14	14	12	14	14	182
要支援(合計)	29	29	29	29	28	28	25	25	24	23	25	25	319
総合計	96	91	89	89	89	88	87	88	90	90	89	92	1,078

【居宅介護事業所 ケアプランセンターなのくに】

1. 利用率の向上

- ・信頼関係の構築や適切なマネジメントを行った。新規や終了ケースもあるものの、担当件数46件を維持することが出来た。
- ・いきいきセンターや各病院連携室への定期的な情報交換を実施し、連携を意識した他、照会後の情報のフィードバックを行うなどその後の繋がりを持たせた。

2. 高品質なサービスの提供

- ・事業所更新時の実地指導を受け、運営基準に沿った運営内容を見直せた。

- ・会話の中で得られる幅広い情報から課題の抽出根拠を示すようにしたが、アセスメントの視点にばらつきがあるため、課題分析表を用いて理解を深めるようにした。

3. 人材育成と確保

- ・相談しやすい環境づくりを目指した。定期的に進捗状況を把握し、相談しながら業務を行ったが、兼務体制もあり十分とは言えなかった。
- ・新型コロナウイルスの影響もあり、外部研修への参加が出来なかった。

4. 地域貢献

- ・感染愛作で地域のネットワーク活動や各行事へ参加することが出来なかった、

- ・zoom等を使用し、連携会議や研修へ参加した他、いきいきセンターからの困難事例への対応や相談に応じることが出来た。

- ・利用者登録者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
予防	3	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1
介護	43	41	47	46	48	45	43	43	45	11	133	45
合計	46	43	49	48	50	47	44	44	46	12	134	46

【サービス付き高齢者向け住宅 まほろばの里なの国】

1. 利用率の向上

- ・入居者の心身機能の低下による特養入所や逝去等、例年と比較すると退去者が多く、入居控えも多かったため、平均入居率は95.5%に留まった。入居の問い合わせ自体も少なく、高齢者施設でのクラスター報道等の影響と思われる。

- ・入居者獲得のためのホームページ等での写真の掲載は、感染対策で行事や物品販売の回数を減らしたため、あまり掲載できなかった。

- ・感染予防としてもマスク着用や手指消毒を徹底。朝夕の検温を徹底したことから、体調不良者の早期発見に繋がった。しかし、行動自粛によって外出や行事が減ったため、全体的なADLの低下が見られた。

2. 高品質なサービスの提供

- ・感染対策に多くの時間を割いたことから、個別の訪問時間を設けることが難しかったが、入居者から直接相談に来ることが増えた。相談員が2名体制のため、いずれかの相談員に話しをしに来られる方が増えたため、相談員記録により相談内容の共有を図った。

- ・感染対策として運営懇談会は中止し、アンケート集計資料を配布した。

- ・近隣医との連携を深め、感染症に関する相談やコロナワクチン接種に関しても協力体制を構築することが出来た。

- ・施設行事が減ったことから、体操の回数を増やし、生活の活性化に努めた。また、年度途中から映画観賞会や手芸活動、喫茶等についても感染対策を行った上で再開した。

3. 働きやすい職場づくり・人材育成

- ・感染対策で外部研修自体が中止となることが多く、有料老人ホーム協会の研修のみ参加。その他、ネットやDVDによる研修を内部で実施した。

4. 地域貢献

- ・地域向けの講座や地域行事も軒並み中止となったが、9月に1度のみ地域住民向けに感染症も含めた「防災について」の講義を行った。

① [月別要介護度]

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
自立	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	9	7	8
要支援1	9	8	7	7	6	7	7	7	6	6	7	6	6.9
要支援2	1	2	3	3	3	4	4	4	3	3	3	4	3.1
要介護1	8	6	9	9	9	9	9	9	8	9	9	13	8.9
要介護2	9	9	9	9	10	10	10	11	11	11	10	8	9.8
要介護3	2	2	3	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1.8
要介護4	3	4	3	3	2	1	1	1	1	1	1	1	1.8
要介護5	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0.3
平均要介護度	2	2.19	2	2.08	2	1.91	1.77	1.78	1.82	1.73	1.71	1.57	1.9

② [入退居状況]

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入居者数	0	0	4	0	0	1	1	1	0	2	4	1	14
退去者数	1	1	1	0	1	1	1	0	3	2	3	1	15
月末在居者	35	35	41	39	40	40	39	38	37	36	40	40	38.3
稼働率(%)	96.6	93.8	92.7	100	99.8	97.3	99.5	98.5	97.3	90.7	88.8	91.5	95.5

【なの国ケアスクール】

1. 利用率の向上

- ・近隣市へ積極的な広報活動を行い、「介護福祉士実務者研修(24名)」の修了生を輩出した。
- ・受講生の、受講に際する金銭的負担の軽減として、教育訓練給付金(4名)、介護福祉士修学資金貸付制度(18名)の活用を積極的に支援した。

2. 高品質なサービスの提供

- ・受講生のアンケートや個別の聞き取りをもとに講義内容や配布資料の見直しを行い、講義や演習の質の向上に努めた。DVD等の視覚教材についても最新のものを追加導入した。

3. 働きやすい職場づくり・人材育成

- ・法人内職員8名が「介護福祉士実務者研修」を受講した。
- ・担当講師との意見交換や振り返りを授業終了毎に行い、質の向上を図った。
- ・ケアスクール受講者から法人職員としての雇用を増やすことは出来なかった。

4. 人材育成と確保

- ・各高校や地域住民への広報活動を実施するも受講希望は得られなかった。病気により生活困窮状態にあった初任者研修卒業生が、介護従事者となって介護福祉士実務者研修を受け、各取得した事例があった。

【恵徳会ライフレスキュー事業】

1. サポーターの配置並びに総合生活相談活動

- ・事務局や社会福祉協議会から要請があった際は相談者との面談を経て、食料品やリユース品の支給を行った。

2. 経済的援助

- ・相談者と面談を実施、本人同行で食料品の購入を実施。また、事業所間で情報共有を兼ねて支援経過の資料を作成し周知を図った。
- ・各家庭で不要となった家具や家電を収集し、施設で保管を行った。

3. 連絡会、研修会への参加

- ・定例連絡会は、感染対策のためリモートで参加した。